1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1574番地		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和6年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の運営するホームであり、病院が隣接しているため入居者の急変に迅速に対応できる。人工透析の方も受け入れ送迎も行っている。介護員等の経管栄養、喀痰吸引の登録施設もおこなっているため、経管栄養(胃瘻)や喀痰吸引の必要な方も受け入れできる。在宅総合診療で医師がホームへ訪問診療を行っているため少しの変化にも対応し、重症化や入院を防ぐことができる。最期の家となるべく「看取り」を行っており、安心して最期の時を迎えることができるように対応している。コロナが5類になったとはいえ、感染リスクを注意しながら短時間の面会も出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から少し入った静かな住宅地に位置し、車の通りも少なく散歩するには適した環境にある。地域とは日常的に挨拶を交わしている。母体は医療法人であり、ホームに隣接する医療機関との連携の強みもあり、医療ニーズが高い入居者に対応出来る体制がとられ、入居者、家族の安心に繋がっている。「看取り」も数多く実施しており、入居者が安心して最期を迎えることが出来る様に対応している。勤続年数が長い職員が数多く、入居者とも馴染みの関係が構築されている。普段から管理者と職員とはアットホームな関係で、働きやすい職場環境作りにも勤めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	1階	2階			1階	2階	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供し続ける」を確認しあい、行動基準の追加、職員心得の確認もしている。	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供し続ける」を確認しあい、行動基準の追加、職員心得の確認もしている。	法人理念は、玄関及び事務所内の目につくところに掲げている。特に接遇に力を入れており、職員の勤務歴も長く日々のケアに浸透している。カンファレンスの時に理念の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5年度の夏祭りは法人に確認し、開かれたものでなく、看護学生の実習日にあわせておこなった。	5年度の夏祭りは法人に確認し、開かれたものでなく、看護学生の実習日にあわせておこなった。	これまでコロナの影響で行事等が中止されていたが、久しぶりに夏祭りを看護学生と共に施設内で実施した。近隣住民とは、会えば挨拶をしているなど、日常生活の中での交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流がもてていない。	地域との交流がもてていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。12月土曜日に忘年会と同日に開催したが、参加家族に変化はなかった。	2か月に一度開催している。12月土曜日に忘年会と同日に開催したが、参加家族に変化はなかった。	2ヶ月に1度対面にて開催している。毎回家族数名の参加があり、市関係者を交え入居者の状態報告、看取り、事故報告等、意見交換を行っている。しかし、地域住民の参加がない状況が続いている。	令和6年度は、運営推進委員として民生委員の参加が予定されているとの事だが、これを機に少しずつでも地域住民の参加の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	5年度は運営指導があり、指導をいただいた。	5年度は運営指導があり、指導をいただいた。	市関係者とは、日頃からわからない事があれば気軽に相談したり、空き情報等の情報提供をしている。令和5年度は実地指導を受け、書類面での改善に努めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4点柵を行っている方がおり、実施状況を記録に残し、カンファレンスを行い継続か中止かの検討を行っている。	4点柵を行っている方がおり、実施状況を記録に残し、カンファレンスを行い継続か中止かの検討を行っている。	身体拘束の研修は、年2回実施している。現在、4点柵の対象入居者がおり、記録を残し毎月委員会で継続か中止かを検討している。以前、施設外へ出て行かれた入居者がいて、それ以来ホールへの出入り口の施錠をするようになった。	4点柵、ホールの入口の施錠について、ケアの工夫や連携体制など検討を継続され、身体拘束に頼らない取り組みに今後も期待したい。

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リモートでの研修参加、包括のスタッフの勉強会を開いて防止に努めている。	リモートでの研修参加、包括のスタッフの勉強会を開いて防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している家族もいらっしゃる。スタッフ全体での勉強会ができていない。	成年後見制度を利用している家族もいらっしゃる。スタッフ全体での勉強会ができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時は契約書、重要事項説明書を読み上げている。	解約時は契約書、重要事項説明書を読み上げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、ご家族の声を聴くようにしている。	運営推進会議を行い、ご家族の声を聴くようにしている。	運営推進委員会や、毎月の便りで入居者の報告を行うと共に、家族からの意見や希望を聞く機会としている。個別では、電話で聞くようにし、意見は全体で運営に活かすように取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで法人からの伝達事項等を伝え、スタッフの意見を出してもらい、上層部へ報告している。	カンファレンスで法人からの伝達事項等を伝え、スタッフの意見を出してもらい、上層部へ報告している。	月1回のカンファレンス、人事考課の他、普段からの管理者と職員とは話されており、意見は法人へ相談して運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を行う機会に面談も行っている。	年2回の自己評価を行う機会に面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	5年度はリモートでの研修参加を少しずつ、おこなっている。	5年度はリモートでの研修参加を少しずつ、おこなっている。		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は他事業所へ赴く機会はほぼない。	現在は他事業所へ赴く機会はほぼない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族とともに望んでいる生活についても話あう。	入居時から、家族との不和があり対応に注意が必要な方がいた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの介護の限界なども契約時にお話している。	ホームでの介護の限界なども契約時にお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のADLを見極めて、必要な介助は何か、本人の望む生活スタイルは何かを見つける努力をしている。	現在のADLを見極めて、必要な介助は何か、本人の望む生活スタイルは何かを見つける努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝い等をお願いして、一緒におこなっている。	家事の手伝い等をお願いして、一緒におこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	短時間面会が可能になっている。	短時間面会が可能になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	安易な外出ができないため、交流はない	安易な外出ができないため、交流はない	入居者と家族との面会は、居室で行ったり、便りで状況の報告をしている。しかし、運転者の手配が難しく、車での外出の機会が難しい状況が続いている。	今後は、運転者の手配の検討など、馴染みの場所への外出も期待したい。

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格等を配慮してテーブルで着席の位置などを考えている	入居者の性格等を配慮してテーブルで着席の位置などを考えている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡によるサービスの終了がほとんどである。お通夜等に参列している	死亡によるサービスの終了がほとんどである。お通夜等に参列している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの検討や変更を定期的に行っている。	ケアプランの検討や変更を定期的に行っている。	入居者の思いや意向を、管理者が居室等で聞いており、家族とは電話で聞いている。また、聞き取りができない時は、ケース記録や月1回のモニタリングで検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネなどに情報を頂きながら把握に努めている	ご家族や担当ケアマネなどに情報を頂きながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤帯、夜勤帯で入居者のリズムが違うため、本人のリズムに合わせている	日勤帯、夜勤帯で入居者のリズムが違うため、本人のリズムに合わせている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に観察やケアのポイントを把握しスタッフの意見も反映している。	ケアマネジャーを中心に観察やケアのポイントを把握しスタッフの意見も反映している。	介護計画の見直しは、ケアマネジャーを中心に主治医、職員等の意見もふまえ、定期(半年)、随時の見直しも適切に行われている。本人の意見、希望に加え、家族には電話や面会時に聞き取りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に本人の言葉をそのまま記録したりしている	個別記録に本人の言葉をそのまま記録したりしている		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の体調や気分に応じてレクリエーション、手作業を行っている。	その日の体調や気分に応じてレクリエーション、手作業を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	庭の植木の剪定、草むしりは外注している。	庭の植木の剪定、草むしりは外注している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在総診、かかりつけ医の往診を行っている	在総診、かかりつけ医の往診を行っている	入居時に本人及び家族の希望を確認し、元のかかりつけ医か同法人の協力医による適切な医療が行われている。また、同法人は多種の診療科があるため、専門医に関してもカバーできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの気づきに対応し、ホーム看護師から在総診看護師へ伝達を行い重症化を防いでいる。	スタッフの気づきに対応し、ホーム看護師から在総診看護師へ伝達を行い重症化を防いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院支援看護師と連携を取り、情報を得ている	退院支援看護師と連携を取り、情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初から急変についての話をを行い家族間の意思の統一をお願いしている。	入居当初から急変についての話をを行い家族間の意思の統一をお願いしている。	重度化や終末期に向けた対応に関し、入居時に説明し、同意をえている。状態変化時には、話し合いをして方針を決めている。夜間帯に関しても、主治医との連携もうまく出来ている。救急、看取りの勉強会も計画的に実施している。	

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の研修を全体研修で受けている	心肺蘇生法の研修を全体研修で受けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。6年度からは災害時に避難訓練を追加する予定	年2回の避難訓練を行っている。6年度からは災害時に避難訓練を追加する予定	年2回、夜間想定火災による避難訓練を実施しており、最低月1回は、コンセントや劣化製品が無い点検している。令和6年度からは、BCP(業務継続計画)の制度から火災以外でも実施する予定である。しかし、地域との協力体制は不十分である。	地域に消防団が無く、地域の連携が難しい状況が続いているが、令和6年度から運営推進委員に民生委員が参加する予定もあり、近隣住民等との協力体制の構築に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修への参加を行い、注意しながらケアを行っている	接遇研修への参加を行い、注意しながらケアを行っている	尊厳に関する研修が行われ、伝達講習を実施している。気になるような言葉かけに関しては、職員同士で注意し合っている。記録物に関しては、事務所での閲覧を義務づけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を表現できない方もおり、うろろろする原因をしり、対応に努めている。	自分の意思を表現できない方もおり、うろろろする原因をしり、対応に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりした時間を過ごせるようにしている	ゆっくりした時間を過ごせるようにしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を理解できない方もいるためスタッフが衣替えを行っている。	季節を理解できない方もいるためスタッフが衣替えを行っている。			

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事にこだわり、提供している。お膳を拭いたりして頂いている。	手作りの食事にこだわり、提供している。お膳を拭いたりして頂いている。	各ユニットで調理され、食材切り、お盆拭き等、入居者の能力に応じた対応をしている。時にはホットプレートを活用し、入居者と共にホットケーキを焼いたり、庭でバーベキューも実施しており、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある方は計量して提供している	食事が入らない方がおり、どのような物を好まれるか、家族や担当医と相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来な方には付き添う。	自分で出来な方には付き添う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、トイレでの排泄をすすめている。	出来るだけ、トイレでの排泄をすすめている。	個々の排泄状態を把握し、寝たきりの入居者以外は、トイレでの排泄を実施している。プライバシーを損ねないように、言葉かけにも注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、必要に応じて下剤の調整を行っている。	排便確認を行い、必要に応じて下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方もおり、誘導に注意が必要。時には家族に電話して入浴を勧めてもらおうなどする。	入浴を嫌がる方もおり、誘導に注意が必要。時には家族に電話して入浴を勧めてもらおうなどする。	週2回以上、1人30分程度ゆっくり入浴が出来るように毎日実施している。音楽を流したり、入浴剤を使ったりするなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、眠剤は使わないようにしている。また、本人に合わせてミリ数を減じたりする。	出来るだけ、眠剤は使わないようにしている。また、本人に合わせてミリ数を減じたりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように確認印をするようにしている	飲み忘れが無いように確認印をするようにしている		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方、手作業が好きな方など本人の希望に合わせてお手伝いしてもらっている。	家事が好きな方、手作業が好きな方など本人の希望に合わせてお手伝いしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出する方はいない、外の駐車場まで散歩位。	現在外出する方はいない、外の駐車場まで散歩位。	感染症やリスク面を配慮し、天気の良い日は、ホーム周辺や神社などにも散歩に行く事もあり、近所の方とも日常的に挨拶を交わしている。また、家族の協力で、外出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしない	お金の所持はしない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話など希望があれば行っている	ご家族への電話など希望があれば行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のADLの変化に応じて配置換え行っている。	利用者のADLの変化に応じて配置換え行っている。	ホールには、季節ごとのテーマの貼り絵が飾られている他、窓越しに桜の木も眺められ季節を感じることができる。感染症対策として、1日3回程度手すりの消毒を行っている。職員は、入居者に不快な思いをさせないように足音、声のトーンに関して注意をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファや、一人がけ椅子など対応する。	大きなソファや、一人がけ椅子など対応する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間のため必要以上のものはなく、季節のものは家族の協力を得ている。	限られた空間のため必要以上のものはなく、季節のものは家族の協力を得ている。	居室には、危険なもの以外は何でも持ち込みは可能である。室内は、入居者や家族の写真、馴染みの物が飾られており、家具やベッドは、入居者の動きに合わせて配置を変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子での移動も自由にできるように、フロアの空間づくりに努めている	1人で出来る事、介助が必要な事を見極め、ケアプランにあげ自立に向けた介助を行っている。		